

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型児童発達支援アルカラ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 24日		～ 令和 7年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 24日		～ 令和 7年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 2月 24日		～ 令和 7年 3月 7日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	場や状況の理解、他者理解、礼節を守るといった行動指標の共有や、DX化を中心とした業務効率化の推進により、高いサービスの質を維持・向上できる体制を整えていること。	適切な保育所等訪問支援サービスを提供するために、必要な手順を明確化し、職員教育や支援検討会を繰り返しながら、全スタッフで訪問支援の専門性を高める取り組みを行っている。	事業所としてアセスメント方法を整理・検討し、より正確にニーズや課題を把握できる体制を整える。
2	信頼関係の構築を重視しながら、子どもを中心としたチームづくりを進めることで、支援に必要な連携体制を整えること。	組織づくり、DX化、職員教育、定例ミーティングなどを通じて、継続的に業務改善を行っている。	異なる専門性を持つスタッフの訪問同行を促進し、より質の高い助言ができる機会を増やしていく。
3	社内での情報共有、支援会、教育システムを整備し、より専門的な支援を提供できる体制を構築していること。	支援の質を高めるために、チャットツールや日報、報告フォームなどを活用し、より密な情報共有やディスカッションが行える体制を整えている。	オンライン・オフラインを問わず社内研修の機会を増やし、職員の資質向上に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族の対応力向上を目的とした家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や、家族が参加できる研修の機会を提供できていない。	現状、平日のみの営業体制となっていることに加え、保育所等訪問支援の提供や教育、ミーティング等により業務が逼迫している状況にあるため。	組織体制の強化や職員教育の推進、新規職員の募集などを通じて、家族支援に人員を割ける体制を整えていく。
2	父母の会の活動や保護者会の開催など、保護者同士が交流する機会を設けることができていない。		
3	定期的な通信の発行や、HP・SNSの活用を通じて、活動概要や連絡体制などの情報を子どもや保護者に発信する体制が整っていない。		DX化の一環として導入した公式LINEを活用し、活動概要や連絡体制などの発信に繋げていきたい。